

平成 2 9 年 度
苫小牧市航空機騒音対策協議会
要 望 活 動 報 告 書

平成 2 9 年 9 月 2 0 ~ 2 2 日

千 歳 ・ 札 幌 ・ 東 京

1 日 程 平成29年9月20日(水) 千歳・札幌
平成29年9月21日(木)～22日(金) 東京
詳細は別紙1のとおり(P3)

2 要望活動者 苫小牧市航空機騒音対策協議会
会 長 丹羽 秀則 (千歳・札幌、東京)
副 会 長 星野 邦夫 (千歳・札幌、東京)
委 員 丹治 秀寛 (千歳・札幌)
委 員 小倉 巖 (千歳・札幌)
委 員 広瀬 悦雄 (千歳・札幌、東京)
委 員 竹田 秀泰 (千歳・札幌)
委 員 三海 幸彦 (千歳・札幌、東京)
委 員 牧田 俊之 (東京)

事務局長 福原 功 (千歳・札幌、東京)
事務局員 小名 智明 (千歳・札幌)
事務局員 柴田健太郎 (千歳・札幌、東京)
事務局員 深山 満展 (千歳・札幌、東京)
事務局員 佐藤 伸 (千歳・札幌、東京)
事務局員 櫻井 理博 (千歳・札幌)
事務局員 銅 真 (千歳・札幌、東京)

3 要望活動

(1) 要望先及び要望書宛先 別紙2(P4～5)のとおり
(2) 要望先対応者 別紙3(P6)のとおり
(3) 要望書 別紙(P7～12)のとおり
(4) 回答要旨 別紙4～6(P13～16)のとおり

4 要望活動の主な質問に対する回答要旨

別紙7(P17～21)のとおり

平成29年度 苫小牧市航空機騒音対策協議会 要望活動日程

9月20日(水) (千歳・札幌)	9:00	国土交通省 東京航空局 新千歳空港事務所
	11:03	航空自衛隊 千歳基地
	13:40	北海道防衛局
	14:40	AIR-DO
9月21日(木) (東京)	11:15	衆議院議員 堀井 学(秘書対応)
	13:15	参議院議員 橋本 聖子
	14:50	国土交通省 航空局
	15:57	国土交通省 東京航空局
9月22日(金) (東京)	10:30	防衛省 航空幕僚監部
	10:43	防衛大臣政務官 大野敬太郎
	13:30	日本航空株式会社

平成29年度 苫小牧市航空機騒音対策協議会 要望書宛先

■国会議員（議員会館：千代田区永田町）

衆議院議員	堀 井 学	（国交省・防衛省分）
参議院議員	橋 本 聖 子	（国交省・防衛省分）

■国土交通省

国土交通大臣	石 井 啓 一
国土交通副大臣	秋 元 司
国土交通副大臣	牧 野 たかお
国土交通大臣政務官	秋 本 真 利
国土交通大臣政務官	築 和 生
国土交通大臣政務官	高 橋 克 法

◎航空局（千代田区霞が関2-1-3）

局 長	蝦 名 邦 晴
航空ネットワーク部長	久保田 雅 晴
航空ネットワーク部 空港業務課長	岡 本 誠 司

◎東京航空局（千代田区九段南1-1-15） 空港民営推進課

局 長	山 口 勝 弘
次 長	勝 吉 正 秋
総務部長	滝 不 二 男
空港部長	永 井 一 浩
保安部長	後 藤 勝 行
安全管理官	今 井 洋 一
空港部次長	井 村 洋 三
総務部総務課長	三 村 行 雄
総務部航空振興課長	堀 内 信 孝
空港部管理課長	佐々木 勇 幸
空港部環境・地域振興課長	高 橋 聡
空港部空港企画調整課長	内 村 聖 信
空港部土木建築課長	見 並 融
保安部技術保安企画調整課長	黒 川 俊 之
保安部管制課長	石 川 誠
保安部管制技術課長	佐 藤 琢

◎東京航空局 新千歳空港事務所（千歳市美々）

空 港 長	沖 津 俊 宗
-------	---------

■防衛省

騒音対策 防音

防衛大臣	小野寺 五 典	○	○
防衛副大臣	山 本 ともひろ	○	○
防衛大臣政務官	福 田 達 夫	○	○
防衛大臣政務官	大 野 敬太郎	○	○
◎防衛政策局（新宿区市谷本村町5-1）			
防衛政策局長	前 田 哲	○	
防衛政策課長	大 和 太 郎	○	
運用政策課長	小 杉 裕 一	○	
◎地方協力局（新宿区市谷本村町5-1）			
地方協力局長	深 山 延 暁	○	○
地方協力企画課長	森 田 治 男	○	○
地方調整課長	熊 谷 昌 司	○	○
防音対策課長	本 田 光 徳	○	○
◎航空幕僚監部（新宿区市谷本村町5-1）			
航空幕僚長	杉 山 良 行	○	
総務部長	荒 木 哲 哉	○	
運用支援・情報部 運用支援課長	稲 月 秀 正	○	
総務部 総務課 基地対策室長	北 川 英 二	○	
◎航空自衛隊第2航空団（千歳市平和）			
千歳基地司令	寺 崎 隆 行	○	
◎北海道防衛局（札幌市中央区大通西1-2）			
局 長	古 川 浩 人	○	○
次 長	三 輪 恒 佳	○	○
企画部長	辻 吉 巳	○	○

平成29年度 苫小牧市航空機騒音対策協議会 要望先対応者

地元選出国會議員

自由民主党	衆議院議員	堀井 学 (秘書対応：山岸 彰)
自由民主党	参議院議員	橋本 聖子

国土交通省

航空局	航空ネットワーク部	空港業務課	課長	岡本 誠司
	〃	〃	課長補佐	広瀬 幸司
	〃	〃	空港周辺地域活性化推進室 室長	佐藤 広光
	〃	〃	騒音防止技術等専門官	青木 高幸
	〃	航空ネットワーク企画課	環境・地域振興調整官	山本 昌明
	〃	〃	空港運営権企画調整官	牧田 聡二
	〃	〃	専門官	児矢野 崇好
	〃	空港経営改革推進室	専門官	鈴木 喜久
東京航空局	空港部		部長	永井 一浩
	〃		次長	井村 洋三
	〃	環境・地域振興課	課長	高橋 聡
	〃	土木建築課	課長	見並 融
	〃	航空振興課	課長	堀内 信孝
	〃	空港企画調整課	課長	内村 聖信
東京航空局	新千歳空港事務所		空港長	沖津 俊宗
	〃		次長	田川 康之
	〃		総務部長	竹内 道久
	〃		管制保安部長	小谷 浩一
	〃		施設部長	森川 未広
	〃		総務課長	青木 善昭
	〃		先任施設運用管理官	岩田 剛彦
	〃		総務課	遠藤 祐介

防衛省

防衛大臣政務官				大野 敬太郎
航空幕僚監部	総務部		部長	荒木 哲哉
	〃	基地対策室	室長	北川 英二
北海道防衛局			局長 (表敬訪問)	古川 浩人
			次長 (表敬訪問)	三輪 恒佳
			企画部長	辻 吉巳
			統括調整官	佐藤 智浩
	〃	地方調整課	地方調整課長	有賀 元宏
	〃	地方調整課基地対策室	室長	木本 義博
	〃	防音対策課	課長	水口 敏史
航空自衛隊第2航空団				
司令部	監理部		部長	佐藤 泰
	〃		基地対策室長	高橋 秀年
	〃		基地対策専門官	見澤 和哉

要 望 書

「航空機騒音の一層の軽減」について、
別記理由により特段の御高配を賜ります
ようお願い申し上げます。

平成29年9月 日

苫小牧市長 岩倉博文

苫小牧市航空機騒音対策協議会
会長 丹羽秀則

理 由 書

新千歳空港は、国際線ターミナルビルの整備など国内線及び国際線の拠点空港として、基盤を整えてきております。

一方、空港周辺の住民は、離着陸機数の増加、運航時間の延長により航空機騒音が一層増え、生活環境への影響を受けている状況にあります。

国におきましては、騒音軽減対策を実施されているところですが、さらに下記事項について、貴職の特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 着陸時における住宅街での飛行高度を遵守すること並びに離陸時における通常の飛行コースを遵守すること
また、離陸時の飛行コースとして住宅街を避けるコースを設定すること
- 2 運航自粛時間における飛行の抑制を徹底すること
特に、深夜の静穏保持の観点から、遅延便等の一層の抑制に向け、航空会社への指導強化を行うこと
- 3 低騒音機種への切替えを促進すること
- 4 外国貨物機の騒音軽減について引き続き指導を行うこと

要 望 書

「航空機騒音の一層の軽減及び安全対策」について、別記理由により特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年9月 日

苫小牧市長 岩倉博文

苫小牧市航空機騒音対策協議会
会 長 丹羽秀則

理 由 書

千歳飛行場は、航空自衛隊の基幹飛行場として重要性が高まっております。

近年、千歳飛行場では、航空自衛隊の通常訓練と政府専用機の訓練に加え、在日米軍再編に伴う訓練移転の開始により航空機騒音が増え、また、戦闘機による事故も発生しております。

一方、宅地開発などにより、航路下地域の人口が増加するなど周辺環境に変化が現れてきております。その結果、飛行場周辺の住民は、航空機騒音による生活環境への影響を受け、また、戦闘機事故に対する不安を抱えながら生活をしている現状にあります。

国におきましては、騒音軽減対策及び安全対策を実施されているところでありますが、さらに下記事項について貴職の特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 市街地上空での低空飛行を避けること
- 2 通常訓練の離着陸コースを遵守すること
- 3 運航自粛時間における飛行の抑制を徹底すること
- 4 訓練・演習における土日祝日の飛行を避けること
- 5 航空機の点検整備及び安全に対する隊員教育を徹底し、事故防止に努めること

要 望 書

「防音対策事業」について、別記理由により
特段の御高配を賜りますようお願い申し上
げます。

平成29年9月 日

苫小牧市長 岩倉博文

苫小牧市航空機騒音対策協議会
会 長 丹羽秀則

理 由 書

千歳飛行場周辺整備事業につきましては、日頃から格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

厳しい財政事情の中にあつて、逐年飛行場周辺地域の環境整備がなされており、感謝に堪えない次第でございます。

しかしながら、千歳飛行場の南方周辺は航空機の頻繁な離着陸による騒音障害と、在日米軍再編に伴う訓練移転の開始により、騒音がさらに増え、周辺住民の生活安定及び福祉の向上のための諸対策が強く望まれております。

つきましては、下記事項について、貴職の特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 住宅防音助成については、対象区域を70Wまで拡大するとともに、全室を対象とし、告示後の新築住宅についても対象とすること

要望事項に関する回答要旨（国土交通省）

要望事項	新千歳空港事務所	東京航空局	国土交通省 航空局
<p>1 着陸時における住宅街での飛行高度を遵守すること並びに離陸時における通常の飛行コースを遵守すること また、離陸時の飛行コースとして住宅街を避けるコースを設定すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 標準的な飛行コースや騒音軽減のための飛行コースは、従来から航空会社等に対して周知を行っている。 しかし、気象条件等により、安全の観点から所定のコースが飛べないこともありえるのでご理解いただきたい。 空港と地域の共生ということは、非常に重要な問題だと認識しているので、引き続き、航空会社等に対してコースの順守について、指導をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 要望事項に対する回答については、新千歳空港事務所と同様。 	<ul style="list-style-type: none"> 要望事項に対する回答については、新千歳空港事務所と同様。
<p>2 運航自粛時間における飛行の抑制を徹底すること 特に、深夜の静穏保持の観点から、延長便等の一層の抑制に向け、航空会社への指導強化を行うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 遅延便発生というのは、非常に重く受け止めている。 遅延のあった航空会社から状況や対策を聞いている。 各社の対応としては、 ①使用する機材の変更 ②深夜帯に近い飛行機の接続を変更して、遅延が発生しないような対策を講じる。 引き続き、航空会社には指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 同上 	<ul style="list-style-type: none"> 同上
<p>3 低騒音機種への切替えを促進すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 低騒音機種への切替えについては、軽減対策としては重要と考えている。 航空会社に対して、支援措置を含めて、上局に伝えるとともに導入を促していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 同上 	<ul style="list-style-type: none"> 同上
<p>4 外国貨物機の騒音軽減について引き続き指導を行うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外国貨物機の騒音軽減について、低騒音機種の導入を含め上局のほうの判断となるので、上局に伝えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 同上 	<ul style="list-style-type: none"> 同上
<p>※ 融雪剤の使用量倍増による、美沢川の水質について</p>	<ul style="list-style-type: none"> 美沢川、美々川で毎月水質調査を行っており、調整池のBODが5ml以下になった時点で放流している。 28年度の融雪剤の使用量が増えた原因については、大雪の際に空気中の湿度がほぼ100%になっており、水分を多く含んだ雪が滑走路に付き剥がれないため、薬剤の撒く量が増えてしまった。 今年度は来年度に向けて少しでも水質を改善するため、現場でできる政策を色々と考えている。 		

要望事項に関する回答要旨（防衛省） 騒音軽減・安全対策

要望事項	北海道防衛局	航空自衛隊 第2航空団	大野防衛大臣政務官	航空幕僚監部
1 市街地上空での低空飛行を避けること	<ul style="list-style-type: none"> ・飛行訓練については、航空機航路等を順守して飛行訓練を行い、他の基地から訓練できたパイロットに対してもブリーフィング等により教育指導を実施し、飛行の安全は元より可能な限り騒音の軽減に配慮して訓練を行っている。 ・飛行コースについては、天候の状況等により安全確保のため雲を避けるように飛行する場合がある。 ・航空自衛隊第2航空団の飛行訓練に際して安全対策に万全を期するとともに飛行場の騒音軽減に配慮して訓練を行うよう留意して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空港法等に基づき、それを遵守し飛行訓練を実施している。 ・他基地から飛行訓練等で来たパイロット等に対しても、ブリーフィング等を利用し、教育指導を実施している。 ・引き続き、飛行安全を念頭に置きつつ、騒音軽減に配慮していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・千歳基地だけではなく、全国の航空基地等において、低空飛行、コースの順守等、運行の自粛時間の飛行の抑制等について、しっかりお話している。
2 通常訓練の離着陸コースを遵守すること	<ul style="list-style-type: none"> ・同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・天候の状況等により、安全確保のために雲を避けるように飛行しなければならない場合があることをご理解願いたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・同上

要望事項	北海道防衛局	航空自衛隊 第2航空団	大野防衛大臣政務官	航空幕僚監部
3 運航自粛時間における飛行の抑制を徹底すること	<ul style="list-style-type: none"> 深夜早朝・土日祝日の飛行については、可能な限り回避するよう努力しているが、緊急発進や災害派遣等により飛行する場合があることについては、ご理解願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2航空団としては、深夜・早朝の飛行訓練を自粛しているが、緊急発進や災害派遣の任務など、上級部隊が計画する演習等については、飛行する場合があることをご理解願いたい。 		<ul style="list-style-type: none"> 同上
4 訓練・演習における土日祝日の飛行を避けること	<ul style="list-style-type: none"> 同上 	<ul style="list-style-type: none"> 第2航空団としては、土日祝日に通常の飛行訓練は計画していない。 ただし、上級部隊が計画する演習・航空祭、及び他基地への支援については飛行することがあり、引き続きご理解願いたい。 		<ul style="list-style-type: none"> 土日祝日の飛行についても、極力任務に支障がない程度という形にはなってしまうものの、気をつけてまいりたい。
5 航空機の点検整備及び安全に対する隊員教育を徹底し、事故防止に努めること	<ul style="list-style-type: none"> 平素より、定期整備、飛行前飛行後に安全点検等を適切に実施するなど事故防止に努めるとともに安全に係る隊員の教育は徹底して実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 平素より、定期的な整備、飛行前、飛行後点検等を適切に実施するとともに、隊員教育の実施し事故防止に努めているところ。 引き続き、安全確保に努めていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 1番心配している航空機の点検整備についても、隊員等にしっかりと教育をしており、航空機の安全性を確保するためにも、飛行機の飛ぶ前後前、この点検もさることながら、航空機が正常に飛べるように、基地もしくは整備所において、安全を確保して事故防止に努めていきたい。

要望事項に関する回答要旨（防衛省）防音対策

要望事項	北海道防衛局	大野防衛大臣政務官
<p>1 住宅防音助成については、対象区域を70Wまで拡大するとともに、全室を対象とし、告示後の新築住宅についても対象とすること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本法に基づき定められた航空機騒音に係る環境基準の趣旨を踏まえ75W以上の区域において、60W以下となるよう住宅防音工事の助成措置を行っている。 ・75W未満の区域の住宅防音の取扱いについては、全国の住宅防音事業の進捗状況を踏まえ今後の検討課題と考えている。 ・全室防音対象については、85W以上の区域では、居住人員に係わらず住宅全体を防音工事の対照とする防音工事を実施しているため、当面は85W以上の区域における当工事の促進に努めることが先決と考えている。 ・85W未満の区域への助成対象範囲の拡大については全国における進捗状況を踏まえ今後検討していきたい。 ・告示後の建築された住宅の防音工事については、全国的に地元の要望が大変強い。しかし、防衛としても、厳しい財政状況というものもあり、今後この告示後住宅についてどのような対応が可能かということについて検討している。 ・防音工事については、未実施の場所が多数あるため、まずは対象となっている住宅の防音工事を進めて行き、その進捗状況を踏まえ次の段階になると考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防音対策について、制約はあるができるだけ皆さんの思いをしっかりと汲み取って対応しないといけないというのが基本だと考えている。

【要望活動時の主な質問に対する回答要旨】

《新千歳空港事務所》

●融雪剤の使用について

Q 融雪剤の使用量が 27、28 年は非常に多い、なぜこんなに増えてきたのか。

A 雪が降る時間帯が延びた、これがまず圧倒的な理由。そのほか、平成 27 年度頃から雪の湿度がほぼ 100% となり、雪が湿って路面にへばりつくような状況となった。そのため、除雪車だけでは取りきれない部分がでてきて、融雪剤を撒いたという事情。

今年度はできるだけ除雪車のブラシで対応するなど、できるだけ薬剤に頼らない方法を今模索している。

●調整池について

Q 融雪剤を 5 倍使って、現在の調整池で本当に間に合うのか。そんなに大きな調整池ではないので、5 倍も使って数値が下がるのか。

A 基本的には水温が上がればプロピゼンとか融雪剤の話であるヒ酸が分解していく。水と二酸化炭素になるので、水温が上がらないと中々分解されないところがある。

●千歳基地東側滑走路の民間機利用について

Q 千歳基地の東側滑走路を利用というのは、航路下住民にとって非常に大きな関心事。検討の狙い及び状況を説明してほしい。

A 詳細は上局のほうで取り扱っている。我々としては明らかなどころは知らないが、北海道に訪日する客が増えたときに、AB の滑走路では足りないという提案があったと聞いている。

●緊急着陸について

Q 緊急着陸というのが報道で聞くが、航路下にいる我々は、飛行機のトラブルが心配。緊急着陸時には、マニュアルのとおりに進められているのか。

A 緊急着陸と言われている報道は、着陸自体が緊急とは言えない。それぞれの会社ごとにルールが決まっており、それぞれの状況でのやり方で承認している。基本的には、パイロットの横に備え付けている、緊急操作とマニュアルに基づき対応している。

《防衛省 航空自衛隊 千歳基地》

●日米共同訓練について

Q オスプレイが騒がれているが、日米共同訓練の時には千歳基地にも飛んでいたのか。

A 陸上自衛隊との共同訓練でオスプレイが飛んだという情報は得ているが、千歳基地第 2 航空団に係わった演習ではないので、この飛行場を使うといったようなことはなかった。

●千歳基地東側滑走路の民間機利用について

Q 千歳基地東滑走路の民航機利用についての報道があったが、防衛はどういう考えか。

A 北海道地域の経済の振興と防衛の関係、そういう観点から今後、調査研究されるとなっている。そのへんをしっかりと分析していただければと考えている。

●政府専用機の訓練について

Q 政府専用機が、コース以外のところを飛んでいるように見える。

A 政府専用機は、日中や夜間において、離着陸訓練の実施といった訓練を行っている。民航機とは使用する滑走路も違うので、異なるコースを飛行する場合はあるが、航空法に順守した飛行訓練を実施しており、他の民航機と大きく異なるような高度での飛行はしていない。引き続き、航空法に基づいた飛行を実施していく。

●戦闘機について

Q 自衛隊機の飛ぶ回数は相当あると思うが、その中で異常な音を発生する飛行機が現実にあるが、どのように考えているか。

A 対領空侵犯措置任務は、昨年度は過去最大の 168 回を航空自衛隊で発進している。安全重視という観点から、飛行経路をずらし騒音を発生させてしまったこともある。しかしながら、パイロット等に関しては教育の徹底とともに、他基地からくるパイロットへの教育を徹底し軽減を図っていく。

●航空祭について

Q 航空祭でブルーインパルスが飛ばなかった。天候はそうでもなかったが、機材の故障だといところが皆不満だった。これは如何なものか。

A 天候が午前中悪かったので、ブルーインパルス以外の F-15 の飛行もできなかった。昼過ぎから若干天気が回復したがトラブルにより演技ができなかった。5 番機、6 番機の 2 機だけが飛んで若干演技したが、本当に申し訳なく思っている。

●防衛について

Q 北朝鮮のミサイルが北海道上空を飛んだが、あのときはどういう対応をしていたのか。

A ミサイル防衛については、統合幕僚監部が一元的に指揮をしている。ミサイル部隊、いわゆる PAC3 部隊については、どんな対応もできる体制をとっていた。

《防衛省 北海道防衛局》

●オスプレイについて

Q オスプレイは、日本も導入ということが決まっているが、何か聞いているか。

A 30 年度、佐賀県に 4 機導入配備しようとして地元と調整している。陸上自衛隊の 40% の演習場が北海道にあるので、31 年度以降になるかと思うが、北海道でも訓練が実施されることは十分考えられる。

Q 事故が多くあるように聞いているが、そんなに多くないとも聞く、どっちなのか。

A 軍用機なので、民間の航空機と同じような条件で訓練していない。かなり厳しい訓練の中、想像を越えるような場合については事故につながるようなこともある。どんなに厳しい訓練環境であっても訓練する場所を選び、周辺の方々に間違っても被害が及ぶようなことが無いようにやっている。

●地域協定の見直しについて

Q 地域協定の見直しについて考えていることは事実か。

A 日本国に対して、日本人或いは日本人の財産に対して重要な被害を与えた場合については、第 1 裁判権は日本側にあるとされているが、それには米軍の同意が必要になる。いずれにしても同盟国なので、情報については、可能な限り開示するように求めている。

●日米共同訓練について

Q オスプレイが三沢から飛んでくるということで非常に心配していた。飛行経路等の情報を地域におろしてほしい。

A 飛行コースは、米軍の運用に係わる話で私たちも知らされていない。一般論だが、運用にあたっては、安全に運航することが大前提。苫小牧市の上空を今回通過したと思うが、十分な高度をとって天候などを見ながらやっているのだから、色々言われている航空機ではあるが、安心していただければと考えている。訓練をやる場合については、可能な限りの情報については苫小牧市に伝えたい。

●防音事業について

Q 防音工事について、告示後住宅がかなりあるので検討いただきたい。

A 告示後住宅は全国的にも本当に強い要望がある。対象となっている住宅は、まだ全部終わっていないので、ある程度見込みができた段階で今後どうするか検討となる。

《AIR-DO》

●遅延便について

Q 遅延による自粛時間を越えた便数が増えたが。

A 昨年 12 月の千歳の大雪、これが大きな原因の一つ。重ねて、昨年度は保安検査の強化もあり、これが重なったことにより、遅延便が増えたと考えている。今後も皆様の意見を真摯に受け止め、遅延発生回数の回避、減少についての努力を続けてまいります。

Q 自粛時間帯飛行の多い便の内訳理由によると、機材故障が 37 便あるが、機材故障とはどういうことか。

A 機材故障については、大変重たいものから軽微なものまである。遅延に繋がる場合は軽微な故障であるということが推測される。下期から予備機を新千歳空港に配備する予定。極力、遅延を回避するような努力をしていきたい。

Q 37 便が5分くらい早くなったが、30 枠の中に入れる等の考えはないのか。

A 割当があり、新千歳も非常に混雑空港の一步手前になっており、自由に時間帯がとれる部分は非常に限定的。また、羽田は枠がなく、動かすことが中々難しい状況。まずは前倒し等で、ご迷惑をかけないように努めていきたい。

Q 新千歳のターミナルはキャパがもうないと思うが、どのようにお考えか。

A 保安検査場も千歳空港の内部カウンターを含めてリニューアルし、新検査場も従来の何分の1 くらいの時間で検査が済んでしまうなど、非常にスムーズな流れを作ろうと努力をしている。

《国土交通省 航空局》

●千歳基地東側滑走路の民間機利用について

Q 千歳基地東側滑走路を民間機が使えないかの調査をすると報道があったが、この調査の観点、項目について聞かせていただきたい。

A 新千歳空港については、インバウンド需要の拡大もあり、国際線等も含めて航空需要の高まりがあるが、すぐに千歳飛行場の滑走路を民航機が使うということになっていない。

千歳飛行場を使ったらどうかという意見は確かなので、基礎的な調査をしていくかも知れないが、新千歳空港側で受け入れることを第1に考えていきたい。

●発着枠拡大における利用について

Q 発着枠が42 枠に増えたが、その後の情報がない。管制のオペレーションが上手くいっているのか、また、説明は今後あるのか。

A 42 枠は、今年3月末の夏ダイヤから実施されている。42 枠を増やすことにより、エアライン側の要望には対応できる。今後は、42 枠の事後評価が必要となってくる。

●滑走路の延長について

Q 滑走路の延長問題について、本省として今後考えているのか。

A 滑走路の延長が必要である状況とは、最大機種が最大重量で離着陸する場合となる。しかし、現在はそのような状況になっておらず、エアラインの動向を見極めて対応する。

●国内線ターミナルビルの拡充について

Q ターミナルが狭くなることにより、遅延便にも影響してくる。そういう中で今後の国内線ターミナルビルの拡張は考えているのか。

A 国際線については、今ターミナル施設の拡充というのは進めている。一方、民間委託が予定されている中で、今後の運営権者の方々を含めたターミナルビルのあり方を尊重していきたいと考えている。

《国土交通省 東京航空局》

●融雪剤について

Q 融雪剤の使用が増えている。BOD を下げた後放流されていることはわかっているが、技術が進んでいる中で、もう少し科学的な解析があるのではないかという気がするのだが。

A 気温と露点温度という温度差がなくなってきている。温度差があるほど、空気も水分を含みやすい。温度差がなくなると、空気に水分が持てなくなり、水分を付着しようとする。そのせいで雪に水分がついてしまって、べたついた雪になってしまう。

Q 融雪剤を撒いて出たものの雨水、雪解け水などが、全部我々の住んでいる地域の川に流れ込む。融雪剤を少なくする方向に何とか考えていただきたい。

A 調整池の泥を取るなど検討したい。どんな工夫をしたかという話と削減の取組みについては、宿題として預からせていただきたい。

《日本航空株式会社》

●遅延便について

Q 自粛時間帯の便数が増えたが、その対応は。

A 遅延便の増加の要因は、一番は悪天候によるところ。対策については、基本的な出発時刻、到着時刻を、10分から15分程度の早発化を実施。また、機材繰りの工夫など予防的な対策を講じている。さらにJ-AIRという小型機を50人乗りから76人乗り或いは95人乗りに変えている。これにより機材の信頼度が高まり、機材の不具合の発生率が減少させている。また、遅延の連鎖が最終便に影響しないよう、遅延が発生した場合にはそこで立ちきり、他の飛行機で次の便を運行するような仕組み等、様々な対策をしている。

Q エア・ドゥでは予備機を持っているようだが、予備機も含めて色々やられているのか。

A ベースが羽田なので、羽田には色々な対応ができる機体も1機配置している。

Q ここ数年の雪質が少し変わっていると聞いているが。

A 確かに最近の雪質は、ウェットスノーを報じられる回数が増えた。ウェットスノーは、少しの量でもすぐ欠航や遅延になる。防氷剤をかけてもウェットスノーが降り始めると防氷剤が落ち、時間切れでもう一回かけ直す作業が出てくることも多々ある。それが遅延の原因の一つかと思われる。

Q 滑走路の長さは。全然問題ないのか。

A 長ければ長いに越したことはないが、国内線では少なくとも十分。

Q 遅延の多かった便について、どういった対策をとっているか。

A 遅延の多かった便については、夏・冬のダイヤにおいて、時間を前倒しにする対策をとっている。

「北海道における空港経営改革」に関する検討の経過

※平成 29 年度 第 1 回苫小牧市航空機騒音対策協議会（平成 29 年 5 月 22 日）以降の経過

平成 29 年 6 月 7 日	「北海道内空港運営の一括民間委託に関する 4 管理者トップ会合」開催
平成 29 年 6 月 27 日	「道内 7 空港における空港経営改革に関する報告等」として、官房長官及び国土交通省と面談
平成 29 年 7 月 31 日	「第 6 回北海道における空港経営改革に関する協議会」開催
平成 29 年 7 月 31 日 ～ 平成 29 年 9 月 11 日	「北海道内 7 空港の運営委託に係る民間投資意向調査（マーケットサウンディング）」の実施
平成 29 年 9 月 9 日	「HOKKAIDO 空港運営戦略フォーラム」開催

北海道内空港運営の一括民間委託に関する5原則について

今後、道内7空港の一括民間委託の実現に向けては、今回、4管理者間で確認・合意が図られた5原則を基本的な考え方として、制度設計などの取組を進めていく。

	5原則
第1原則	4管理者が、7空港一体という枠組みに変更がないということを共有する。そして成功に向けて一致団結して責任を共有する。
第2原則	4管理者は、一心同体のプロジェクトチームとして共同で公平な入札を行い、競争の中で成長力も含めた7空港全体の能力強化に貢献する運営権者を選定する。
第3原則	運営権者の提案や要求水準を遵守しない事態が続いた場合には、4管理者全ての契約解除を念頭に対処できる包括的な仕組みをつくる。
第4原則	黒字の空港による赤字補てんという形ではなく、民間の経営力と統合効果による自治体管理空港の成長を目指す。
第5原則	原則としては、選ぶ側と選ばれる側の立場の混同につながる管理者による出資は行わない。

北海道内7空港の運営の一括民間委託に関する 基本スキーム(案)について

平成29年7月31日
国土交通省航空局

北海道内の空港の運営委託に向けた取組状況

※ スケジュールは手続きが最速で進んだ場合の想定であり、今後変更があり得る



【地元自治体との連携についての動き】

- ① 平成29年1～5月 対象7空港各地元でシンポジウム開催(各回約300～600名が参加)
旭川(1/25～26) 釧路(2/27～28) 稚内(3/22～23) 函館(3/28～29) 帯広(4/18～19) 女満別(5/10～11) 新千歳(5/16～17)
- ② 平成29年7月 空港経営改革協議会(国・道・空港所在自治体(10市町)で構成)の開催
: 平成28年5月の立ち上げ以降、5回にわたって開催されており、これまでも空港所在自治体の意見を聴取
: 7月31日開催の協議会での了承をもって、マーケットサウンディングを開始



関係自治体の意見を取り入れつつ、平成32年度の運営委託開始に遅れることのないようMSを実施

基本スキーム(案)のポイント

○ これまでの関係自治体との議論においては、特定の空港だけでなく北海道全体の活性化に資するようプロジェクトを進めてほしい、という意見が多く挙がっているところ。

○ この結果として、策定する基本スキーム(案)のポイントは以下のとおり。

- ① 7空港・4管理者で一体的にプロジェクトを進めること
- ② 「北海道の広域観光の振興」及び「道内航空ネットワークの充実強化」について提案を求めること

○ 事業期間

- ・30年間（合意延長5年以内、オプション延長なし）

○ 事業方式

- ・公募により7空港の提案内容を一体的に審査・評価し、運営権者を選定
- ・SPCを設立し、7空港の滑走路等の運営（着陸料の收受等）とターミナルビル等の運営を上下一体的に実施

○ 参加資格要件

- ・一定規模の事業実績要件（一定の運営能力）

・航空会社の出資規制

航空会社の関連会社等不可 + 航空会社合計 1/3超 不可

○ 本事業の費用負担

- ・国管理4空港は、運営権者が原則全ての費用を負担。道管理空港及び特定地方管理空港は、混合型の仕組みを検討

○ 運営権者からの提案を求める事業(提案事業)

- ・北海道の広域観光の振興に関する提案
- ・道内航空ネットワークの充実強化に関する提案
- ・地域との共生に関する提案

○ 運営権者の責任の履行確保に関する事項

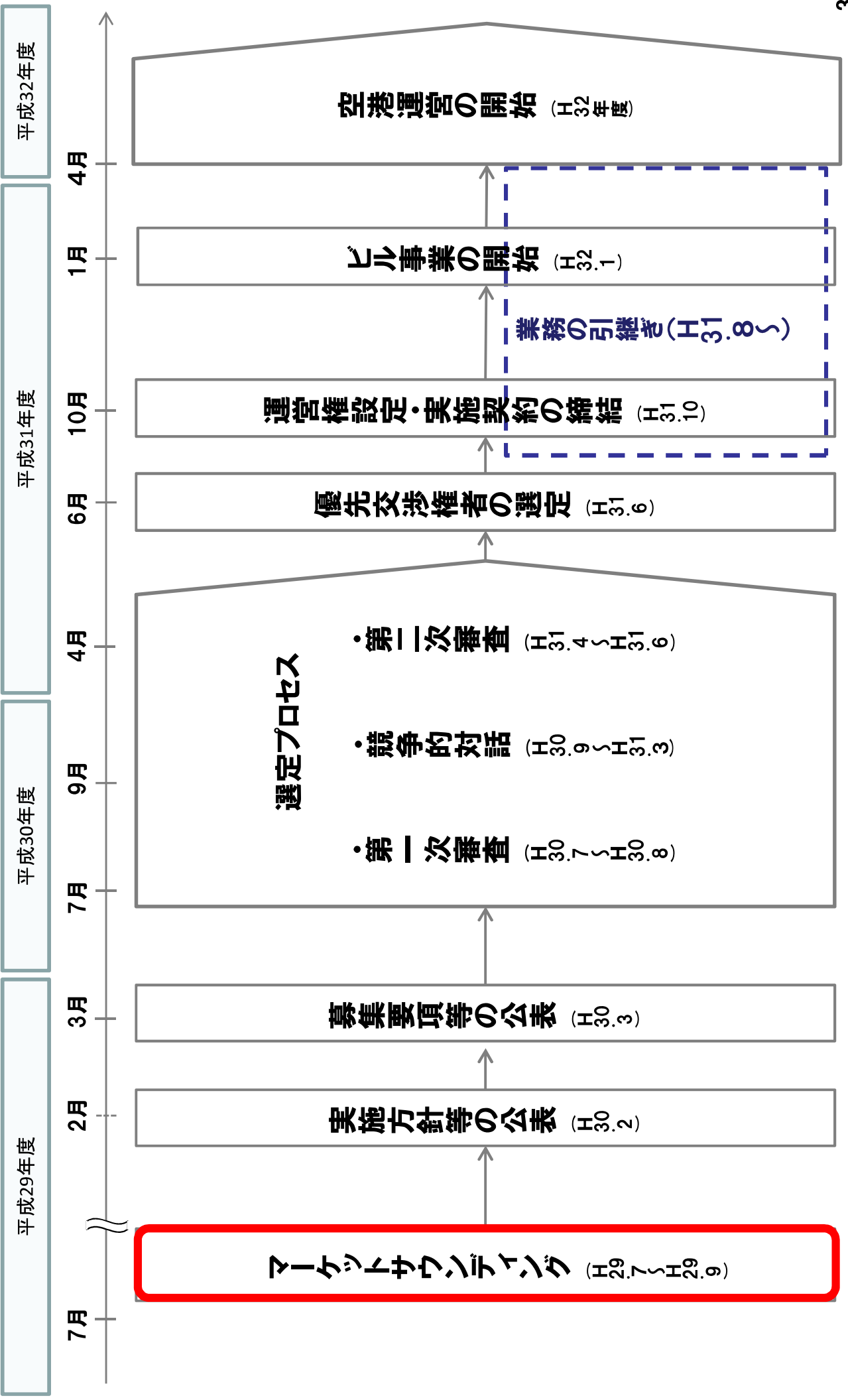
- ・管理者によるモニタリングにつき、4管理者共通化の枠組みを構築

○ その他

- ・運営権者の提案や要求水準を遵守しない事態が続いた場合には、4管理者全ての契約解除を念頭に対処できる包括的な仕組みを構築

北海道内7空港運営委託に向けた現時点での想定スケジュール

※スケジュールは現時点での想定であり、今後、変更があり得る



平成29年度 再編関連訓練移転等交付金予定事業(案)

(単位：千円)

事業名	総事業	交付金				現額	
		①当初額 H29年5月	②変更後 H29年11月	②-① 増減			
植苗・美沢地区	植苗地区テレビ共同受信施設増設事業	13,371	12,710	12,710	0	12,710	
	植苗ポンプ場非常用発電機設置事業	13,511	27,000	11,259	-15,741	11,259	
	植苗道営住宅建設に係る道路整備事業(9月)	8,370		7,540	7,540	7,540	
	小計	35,252	39,710	31,509	-8,201	31,509	14.1%
沼ノ端地区	沼ノ端カートセンター除湿機設置事業	12,528	11,750	11,750	0	11,750	
	沼ノ端スポーツセンタートレーニング器具設置事業	5,724	6,120	6,120	0	6,120	
	消防署沼ノ端出張所簡易型消火用水槽整備事業	2,437		2,070	2,070	2,070	
	沼ノ端駅周辺防犯カメラ設置事業	10,000		9,500	9,500	9,500	
	沼ノ端鉄北地区複合施設備品整備事業	1,000		950	950	950	
小計	31,689	17,870	30,390	12,520	30,390	13.6%	
勇払地区	勇払5号公園整備事業(9月)	28,545		27,000	27,000	27,000	
	小計	28,545	0	27,000	27,000	27,000	12.1%
三地区含む共通	小中学校図書整備事業	12,000	10,000	10,000	0	10,000	
	除雪等車両整備事業	31,968	33,300	31,827	-1,473	31,827	
	小中学校トイレ洋式便器設置事業	21,017		18,910	18,910	18,910	
	小中学校防災用WI-FI整備事業	16,340		14,700	14,700	14,700	
小計	81,325	43,300	75,437	32,137	75,437	33.8%	
共通	保健センター医療機器整備事業	17,411	15,670	15,670	0	15,670	
	総合体育館備品等整備事業	19,274		17,400	17,400	17,400	
	乳幼児用健診等機器整備事業	7,098		6,390	6,390	6,390	
	市立病院医療機器整備事業	19,379		19,379	19,379	19,379	
小計	63,162	15,670	58,839	43,169	58,839	26.4%	
合計	239,973	116,550	223,175	106,625	223,175		

平成29年度再編関連訓練移転等交付金額/223,175千円

平成30年度 再編関連訓練移転等交付金予定事業(案)

(単位：千円)

事業名		交付金	
植苗・美沢地区	植苗道営住宅建設に係る道路整備事業	66,500	
	小計	66,500	66.5%
沼ノ端地区	沼ノ端鉄北地区複合施設備品等整備事業	33,500	
	小計	33,500	33.5%
勇払地区			
	小計	0	0.0%
三地区含む共通			
	小計	0	0.0%
共通			
	小計	0	0.0%
合計		100,000	

再編関連訓練移転等交付金額 当初予算 100,000千円（見込み）

※その他検討事業

- 沼ノ端駅前シンボルロード整備事業
- 勇払地区防火水槽整備事業
- 勇武津資料館等施設整備事業
- 小中学校図書整備事業
- 市立病院医療機器整備事業